

財 政 援 助 団 体 等 監 査 結 果 報 告

[財 団 法 人 神 戸 フ ァ ッ シ ョ ン 協 会]

神戸市監査委員	櫻	井	誠	一
同	佐	伯	育	三
同	崎	元	祐	治
同	松	本		修

地方自治法第 199 条第 7 項の規定に基づき実施した平成 22 年度財政援助団体等監査について、同条第 9 項の規定によりその結果に関する報告を次のとおり決定した。

1 監 査 の 対 象

財団法人神戸ファッション協会（以下「協会」という。）における神戸市（以下「本市」という。）からの財政援助に係る出納その他の事務で、主として平成 21 年度執行の事務

2 監 査 の 期 間

平成 22 年 8 月 25 日～平成 22 年 12 月 27 日

3 監 査 の 方 法

監査は、出納その他の事務が法令等に基づき適正に行われているかについて、関係書類の調査とともに、関係職員に対する質問等の方法により実施した。

4 団 体 の 概 要

(1) 設立の趣旨

協会は、神戸を中心とする兵庫県下の生活文化産業の振興を図るため、情報の収集及び発信、調査研究、企業及び人材の育成及び交流、イベントの開催等の生活文化及び生活文化産業に関する諸事業を行うとともに、神戸ファッションのイメージアップを促し、もって生活文化の向上と地域経済の活性化に寄与することを目的として、平成 3 年 5 月に任意団体として発足し、平成

4年8月に財団法人化された。

(2) 本市との関係

① 財政援助

平成21年度は、負担金として、神戸ファッションフェスティバル開催、神戸ファッションウィーク開催事業に2,630万円を交付している。

② 職員数

平成21年度末の職員数は5人であり、うち本市派遣職員は1人である。

(3) 事業の概要

協会の所在地は、中央区港島中町6丁目1番地神戸商工会議所会館6階である。

協会は、ファッション産業の振興を図るため、ファッションイベントの開催を通じ、販路拡大・消費拡大、人材の育成・確保、都市ブランドの強化に取り組むとともに、ファッション関連情報の収集・発信・調査、会員企業及び人材の育成交流事業等を実施しており、主な業務量の推移は、第1表のとおりである。

第 1 表 業 務 量 の 比 較

項 目		平成21年度	平成20年度	対前年度 増 減	対前年度 増 減 率
会 員 数	年 度 末 数	163社・団体・人	160社・団体・人	3社・団体・人	1.9
情 報 の 収 集 ・ 発 信 ・ 調 査 事 業	年 度 末 数				
KFO ニ ュ ー ス の 発 行	発 行 回 数	7回 (No. 69~75)	5回 (No. 64~68)	2回	40.0
* 神 戸 ま つ り 「 V I V A ! 地 場 産 業 」 の 開 催	出 展 者 数	13団体	13団体	0団体	0.0
企 業 及 び 人 材 の 育 成 交 流 事 業					
ブ ラ ン デ ィ ン グ 研 究 会	年 度 末 会 員 数	20人	21人	△1人	△ 4.8
新 ・ 次 世 代 の 会	年 度 末 会 員 数	25人	23人	2人	8.7
会 員 講 演 会 ・ 視 察 会 ・ 交 流 会	参 加 者 数	78人	85人	△7人	△ 8.2
KFO フ ァ ッ シ ョ ン 塾	開 催 数	5回	—	5回	皆増
フ ァ ッ シ ョ ン イ ベ ン ト の 開 催					
販 路 開 拓 ・ 消 費 拡 大 の た め に					
産 業 企 画 展 「 ひ ょ う ご “ じ ば さ ん 広 場 ”	出 展 社 等 数	30団体・企業	33団体・企業	△3団体・企業	△ 9.1
	入 場 者 数	16,000人	31,000人	△15,000人	△ 48.4
地 場 産 業 ビ ジ ネ ス チ ャ レ ン ジ 事 業	催 事 企 画 数	5回	5回	0回	0.0
	意 見 交 換 会 参 加 者 数	15団体・企業	17団体・企業	△2団体・企業	△ 11.8
* 灘 の 酒 と 食 を 愉 し む 会	協 賛 企 業 数	18社・団体	15社・団体	3社・団体	20.0
	入 場 者 数	710人	770人	△60人	△ 7.8
* IFF 神 戸 フ ァ ッ シ ョ ン プ ー ス	神 戸 プ ー ス 出 展 社 数	20社	20社	0社	0.0
ア ン テ ナ シ ョ ッ プ 開 設 支 援 事 業	出 店 社 数	17社	4社	13社	325.0
人 材 の 育 成 ・ 確 保 の た め に					
* 神 戸 フ ァ ッ シ ョ ン コ ン テ ス ト	応 募 者 数	162人	245人	△83人	△ 33.9
* ド ラ フ ト !	応 募 者 数	244組	256組	△12組	△ 4.7
	商 談 開 始 数	27組	21組	6組	28.6
	シ ョ ッ プ デ ビ ュ ー 数	26組延べ12シヨップ	14組延べ17シヨップ	12組延べ△5シヨップ	85.7
都 市 ブ ラ ン ド の 強 化 の た め に					
* 洋 菓 子 フ ェ ス タ i n K O B E	来 場 者 数	78,000人	78,500人	△500人	△ 0.6
* 神 戸 フ ァ ッ シ ョ ン ウ ィ ー ク	関 連 イ ベ ン ト 数	68	54	14	25.9
	参 加 店 舗 数	156店	200店	△44店	△ 22.0
後 援	後 援 事 業 数	18事業	20事業	△2事業	△ 10.0

*は本市負担金の対象となっている事業。

(4) 経営状況

協会の会計は、一般会計、ファッションイベント特別会計に分かれている。会計処理は公益法人会計基準を適用しており、消費税処理は税込処理である。

ファッションイベント特別会計はファッションイベント事業を経理し、一般会計はそれ以外の事業を経理している。

一般会計とファッションイベント特別会計をあわせた経営状況は、第2表のとおりである。

第 2 表 比較正味財産増減計算書（総括表）

(単位 金額：千円)

科 目	平成 21 年度		平成 20 年度		対前年度 増 減	対前年度 増 減 率
	金 額	構 成 比 率	金 額	構 成 比 率		
I 一般正味財産増減の部						
【 経 常 増 減 の 部 】						
(1) 経 常 収 益 (a)	140,475	100.0	162,005	100.0	△ 21,530	△ 13.3
① 基 本 財 産 運 用 益	7,528	5.4	5,653	3.5	1,875	33.2
② 受 取 賛 助 会 費	19,300	13.7	19,650	12.1	△ 350	△ 1.8
③ 事 業 収 益	18,461	13.1	20,014	12.4	△ 1,553	△ 7.8
④ 補 助 金 等 収 益	21,170	15.1	19,365	12.0	1,805	9.3
(うち神戸市補助金)	(-)	-	(11,574)	7.1	(△11,574)	皆減
⑤ 受 取 負 担 金	28,800	20.5	37,620	23.2	△ 8,820	△ 23.4
(うち神戸市負担金)	(26,300)	18.7	(27,100)	16.7	(△800)	△ 3.0
⑥ 雑 益	309	0.2	433	0.3	△ 124	△ 28.6
⑦ 他 会 計 か ら の 繰 入 額	44,907	32.0	59,270	36.6	△ 14,363	△ 24.2
(2) 経 常 費 用 (b)	134,280	100.0	167,066	100.0	△ 32,786	△ 19.6
① 事 業 費	68,001	50.6	81,283	48.7	△ 13,282	△ 16.3
② 管 理 費	21,372	15.9	26,513	15.9	△ 5,141	△ 19.4
③ 他 会 計 へ の 繰 入 額	44,907	33.4	59,270	35.5	△ 14,363	△ 24.2
当期経常増減額 (A = a - b)	6,195	-	△ 5,061	-	11,256	-
【 経 常 外 増 減 の 部 】						
(1) 経 常 外 収 益 (c)	-	-	-	-	-	-
(2) 経 常 外 費 用 (d)	-	-	-	-	-	-
当期経常外増減額 (B = c - d)	0	-	0	-	0	-
当期一般正味財産増減額 (C = A + B)	6,195	-	△ 5,061	-	11,256	-
一般正味財産期首残高 (D)	94,815	-	99,877	-	△ 5,062	△ 5.1
一般正味財産期末残高 (E = C + D)	101,010	-	94,815	-	6,195	6.5
II 指定正味財産増減の部						
① 基 本 財 産 評 価 益	5,141	-	-	-	5,141	皆増
② 基 本 財 産 評 価 損	△ 2,933	-	-	-	△ 2,933	-
当期指定正味財産増減額 (F)	2,208	-	0	-	2,208	皆増
指定正味財産期首残高 (G)	597,947	-	597,947	-	0	0.0
指定正味財産期末残高 (H = F + G)	600,155	-	597,947	-	2,208	0.4
III 正味財産期末残高 (I = E + H)	701,165	-	692,762	-	8,403	1.2

ア 一般会計

経営状況は、第3表のとおりである。

第3表 比較正味財産増減計算書（一般会計）

(単位 金額：千円)

科 目	平成21年度		平成20年度		対前年度 増 減	対前年度 増 減 率
	金 額	構 成 率	金 額	構 成 率		
I 一般正味財産増減の部						
【 経 常 増 減 の 部 】						
(1) 経 常 収 益 (a)	79,158	100.0	88,442	100.0	△ 9,284	△ 10.5
① 基 本 財 産 運 用 益	7,528	9.5	5,653	6.4	1,875	33.2
② 受 取 賛 助 会 費	19,300	24.4	19,650	22.2	△ 350	△ 1.8
③ 事 業 収 益	2,053	2.6	5,735	6.5	△ 3,682	△ 64.2
④ 補 助 金 等 収 入	21,170	26.7	19,365	21.9	1,805	9.3
(うち神戸市補助金)	(-)	-	(11,574)	13.1	(△11,574)	皆減
⑤ 受 取 負 担 金	28,800	36.4	37,620	42.5	△ 8,820	△ 23.4
(うち神戸市負担金)	(26,300)	33.2	(27,100)	30.6	(△800)	△ 3.0
⑥ 雑 益	307	0.4	418	0.5	△ 111	△ 26.6
(2) 経 常 費 用 (b)	72,940	100.0	93,072	100.0	△ 20,132	△ 21.6
① 事 業 費	6,661	9.1	7,289	7.8	△ 628	△ 8.6
② 管 理 費	21,372	29.3	26,513	28.5	△ 5,141	△ 19.4
③ 他 会 計 へ の 繰 入 額	44,907	61.6	59,270	63.7	△ 14,363	△ 24.2
当期経常増減額 (A = a - b)	6,217	-	△ 4,630	-	10,847	-
【 経 常 外 増 減 の 部 】						
(1) 経 常 外 収 益 (c)	-	-	-	-	-	-
(2) 経 常 外 費 用 (d)	-	-	-	-	-	-
当期経常外増減額 (B = c - d)	0	-	0	-	0	-
当期一般正味財産増減額 (C = A + B)	6,217	-	△ 4,630	-	10,847	-
一般正味財産期首残高 (D)	94,732	-	99,363	-	△ 4,631	△ 4.7
一般正味財産期末残高 (E = C + D)	100,950	-	94,732	-	6,218	6.6
II 指定正味財産増減の部						
① 基 本 財 産 評 価 益	5,141	-	-	-	5,141	皆増
② 基 本 財 産 評 価 損	△ 2,933	-	-	-	△ 2,933	-
当期指定正味財産増減額 (F)	2,208	-	0	-	2,208	皆増
指定正味財産期首残高 (G)	597,947	-	597,947	-	0	0.0
指定正味財産期末残高 (H = F + G)	600,155	-	597,947	-	2,208	0.4
III 正味財産期末残高 (I = E + H)	701,105	-	692,679	-	8,426	1.2

イ ファッションイベント特別会計

経営状況は、第4表のとおりである。

第4表 比較正味財産増減計算書（ファッションイベント特別会計）
（単位 金額：千円）

科 目	平成21年度		平成20年度		対前年度 増 減	対前年度 増 減 率
	金 額	構 成 比 率	金 額	構 成 比 率		
I 一般正味財産増減の部						
【 経 常 増 減 の 部 】						
(1) 経 常 収 益 (a)	61,317	100.0	73,563	100.0	△ 12,246	△ 16.6
① 事 業 収 益	16,408	26.8	14,278	19.4	2,130	14.9
② 雑 益	3	0.0	15	0.0	△ 12	△ 80.0
③ 他 会 計 か ら の 繰 入 額	44,907	73.2	59,270	80.6	△ 14,363	△ 24.2
(2) 経 常 費 用 (b)	61,339	100.0	73,994	100.0	△ 12,655	△ 17.1
① 事 業 費	61,339	100.0	73,994	100.0	△ 12,655	△ 17.1
当期経常増減額 (A = a - b)	△ 22	—	△ 431	—	409	—
【 経 常 外 増 減 の 部 】						
(1) 経 常 外 収 益 (c)	—	—	—	—	—	—
(2) 経 常 外 費 用 (d)	—	—	—	—	—	—
当期経常外増減額 (B = c - d)	0	—	0	—	0	—
当期一般正味財産増減額 (C = A + B)	△ 22	—	△ 431	—	409	—
一般正味財産期首残高 (D)	83	—	514	—	△ 431	△ 83.9
一般正味財産期末残高 (E = C + D)	61	—	83	—	△ 22	△ 26.5
II 指定正味財産増減の部						
当期指定正味財産増減額 (F)	0	—	0	—	0	—
指定正味財産期首残高 (G)	—	—	—	—	—	—
指定正味財産期末残高 (H = F + G)	—	—	—	—	—	—
III 正味財産期末残高 (I = E + H)	61	—	83	—	△ 22	△ 26.5

5 監査の結果

(1) 本市からの財政援助に関する事項について

当年度は、神戸ファッションフェスティバル開催負担金、神戸ファッションウィーク開催負担金として2,630万円を受け入れており、前年度に比べ80万円減少している。なお、前年度は本市派遣職員人件費相当分として補助金を受け入れていたが、当年度より本市からの給与支給に変更となり、補助金の受け入れはない。

(2) 意見

本市からの負担金に係る出納その他の事務について監査した結果、事業は負担金の交付目的を達成しているものと認められた。また、事務処理もおおむね適正に行われているものと認められた。

ただ、協会がイベント等の事業を行った際、見積もり合わせや契約書を交わすことなく、高額な委託費等を事業者に支払っている事例が見受けられた。協会の現行会計規則には、契約に関する規定がないことから、このような事務処理がなされていると思われるが、協会事業の多くは本市負担等の公金を財源とするものであることから、その公金の使途を確認する上で、支出の根拠となる契約内容が客観的に契約書類等で確認できることが望ましいと考える。よって、協会の会計規則に契約に関する規定を定める等、より透明性を確保する方策を検討されたい。

(3) まとめ

協会は、これまで本市と連携して開催している各種ファッションイベントを通じて、展示会への合同出展等による中小ファッション企業の「販路開拓」の支援や公募したクリエイターに海外留学の機会を提供すること等による「人材の育成・確保」、灘の酒や洋菓子、真珠等の「神戸ブランドの強化」に向けた取組みを行うとともに、神戸コレクションに連動して「神戸ファッションウィーク」を開催し、ファッション都市神戸のアピールに努めてきた。

今後とも、本市を中心とする兵庫県下の生活文化産業振興のための中核組織として、個人の価値観やライフスタイル、地域ニーズの変化に即した事業内容の充実を図るとともに、ファッション産業の発展と地域経済の活性化に一層努められるよう希望する。

凡 例

- 1 文中で用いる金額は、原則として千円の位以下を省略し、万円単位で表示している。
- 2 各表中の金額は、原則として百円の位を四捨五入し、千円単位で表示している。したがって合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 各表中の比率は、百分率で表示し、小数点以下第2位を四捨五入している。したがって合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 4 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
「0」及び「0.0」-----該当数値はあるが、単位未満のもの。
対前年増減額及び率の場合は、零を含む。
「-」-----該当数値なし、算出不能又は無意味のもの。
「ほぼ皆増」-----増加率が1,000%以上のもの。
- 5 文中及び各表中でいう消費税とは「消費税」および「地方消費税」をいう。